

新たなる年を迎えて

## 回顧と展望

行政管理庁行政管理局統計主幹 杉 浦 滋

皆様、明けましておめでとうございます。

昨年10月1日に第11回国勢調査が実施された。それはいろいろな意味で画期的な意味をもつたと云わなければならない。

第一に、国勢調査は戦後わが国の新しい統計制度のもとに指定統計第一号として指定されたものがあるが、今回戦後初めて沖縄を含めた日本全地域に亘って統一的に調査が行なわれたということである。これは昭和47年の祖国復帰を前にして、各般の沖縄開発対策をわが国全体の行政施策の中に明確且つ適切に位置づける上に不可欠の基本的な資料を提供するものとして重要な意味をもつものである。また、今度の調査は、わが国の人口問題、都市対策などへの接近を積極的に意図して野心的ともいえるいくつかの調査項目を含んで実施されたのであるが果たしてどのような効果がおさめ得られるか極めて関心がもたれるところである。

さらに、もう一つの点は、たまたま今度の調査実施に際してマスコミにも大きく上げられた幾つかの指摘が、わが国の統計調査一般を通じての問題点としてわれわれに早速な回答を求めているということであろう。

その一つとして挙げなければならないのは、いわゆるプライバシー問題である。プライバシーとは何か、その権利侵害の条件は何か、というような点についてこの法律上の解釈はまだ定着していないと思われるが、少なくとも統計調査の上ではこれをどう取扱うべきかについては、できるだけ速やかにこれを明確にする必要があると考えられる。統計調査が、とくに指定統計として実施される場合、統計法によつて調査対象に対して申告の義務を課しているといつても、調査を円滑且つ効果的に行なうためには被調査者側の国民一般からの十分な協力が得られることが何よりも必要なことはいままでもない。その観点からすれば、プライバシーの権利意識が強まってく一般の傾向に配慮しながら、統計調査の設計面、実地調査の方法面について十分な工夫が必要となろう。この場合でも、統計調査の意味とその活用について（秘密保護の担保を含め）一般の理解を得られるように、最善の努力をしなければならないのはもちろんである。

45年度の全国統計大会が、去年7月東京で開催されたが、そこで提示された政府への要請はまことに中央でこれを受けて立つべき内容を含んでいると思う。中央への反省を強く促す意味で云われたものと私は解釈しているものの、美濃部都知事の「指定統計返上論」に会場から

盛んな拍手が送られたのは意外であつたが、宣言なり要望なりに謳われていることは、要するに政府統計の整理（重複排除と整備）と、調査員を含めた地方実施体制の強化ということである。各都道府県や市町村において、それぞれの行政需要に対応する上に独自の統計調査が必要であるし、また必要の加わっていくことは確かであることは十分理解されることであつて、むしろ、平均的にいつていまは過少ともいえると考えられるのであるが、一国における基幹的な統計は作成技術的、また能率的、あるいは合理性をそれぞれの点からいつて政府統計が主体となるべきであり、またその実査面で地方側が広く活用されることは、地方統計と有機的に関連させる観点などから、矢張り望ましい制度であると思う。ただ、統計法施行後4半世紀に亘つて整備されてきた政府統計が、時代の推移に伴う社会経済の環境変化に対応する基礎的な行政情報として十分かどうか、逆に不急不用となっているものはないか、作成目的に照らし統廃合すべきものはないか、などについての反省が当面緊要であるということは、たしかである。従来とて、そういう反省はむしろ各省庁にあつてもあつたのであるが、その反省を具体的な形にして改善をはからなければならない時期が既に始まつたというべきであろう。昨年は、法人企業統計が指定統計として指定され、また指定統計である毎月勤労統計調査が、従来承認統計として実施されていたサービス産業を含むように拡大されたが、これは体系整備の上からかねて要請があつたもので、何れも承認統計を廃止して事務的に処理し易くしたい狙いもある訳である。しかし、果たしてこのような効果を十分挙げるためには実施面で具体的に工夫し努力していかなければなるまい。

政府としては、政府統計の再編整備の路線をできるだけ早期に具体的に打ち出したいと考え、行管を中心に関係各省の間で作業に着手しはじめている。それは地方側での実査面に大きく影響するというだけでなく、もともと国として、行政改革の趣旨をまつまでもなく、当然考慮しなければならないことがらであるからである。情報化時代といわれるこれからの行政を真に国民のためにする上に、統計がいよいよその重要度を増す以上、統計調査の実施について中央・地方がともに協力し合つて改善を図っていくのは当然過ぎるほど当然であるし、またその改善がいくら早くても早過ぎるということはないのである。

# 人口統計の利用方法について

厚生省人口問題研究所人口政策部長

上 田 正 夫

国勢調査は、人口静態統計を得るための最も本格的な、第一義的な調査であり、人口の大きさを知り、その種々な構造を知る上できわめて重要な調査である。また、人口の増加を左右する要因のうち、出生、死亡は婚姻・離婚・死産とともに、その届出にもとづいて調査され、月別と年次別に集計されている。さらに、転入・転出は住民基本台帳（住民登録法）にもとづいて昭和29年から総理府統計局によつて集計され、年報が刊行されている。

人口に関する統計は、以上が主要なものであるが、このほかに中央・地方の官公庁で作成される各種のものがある。

人口の大きさは、各種の施策を計画する上での最も基本的な数字として広く利用されるとともに、人口動態をはじめ、社会、経済、文化など各種の統計と対比して、その程度を比較する基礎人口として用いられる。また、時系列として、人口増加の程度を知るのに用いられるが、増加の要因はそれぞれ、時代の経済的、社会的諸条件によつて各種の影響を受けるから、人口増加は経済、社会の変動を最も集約的に表現しているものと考えられる。

人口の静態統計は、絶えず変動しつつある人口の瞬間の姿であり、各種の人口構造をとらえるものである。そのうち、男女別・年齢別人口は、最も基本的な構造として、人口総数とともに、各種の施策の基礎として広く用いられる。

この男女年齢別人口構造が枠の中で、労働力人口、産業別・職業別就業者、従業地別就業者、教育程度別人口、配偶関係別人口などがとらえられ、それぞれ利用の途は多方面にわたっている。

最近とくに重要性が高まつてきた世帯は、各種の施策の基礎として利用され、民間でもマーケティングのために利用度が増大している。

一方、人口動態統計は婚姻数や出生数の直接的な利用の途もあるが、それらを分析して、人口学をはじめ、関連科学の観点からの調査研究の重要な基礎材料として用いられ、将来人口予測に用いられる場合の方が多い。

人口統計の利用度が高まるとともに、経済計画を立案する場合の基礎として、将来人口の推計が国をはじめ、各地域でもさかに行なわれるようになった。推計方法には、総人口の過去の動向に傾向線をあてはめて延長する場合と、人口増加の要因ごとに将来の動向を断片して推計する場合とがある。

また、男女年齢別人口の推計は、基礎とする国調年次

の男女年齢各歳別人口に、仮定した各歳ごとの生残率を乗じて、翌年の一歳以上の人口を推計し、0歳人口は前年の女子年齢別出生率を年齢別女子人口に乗じてえた出生数から乳児死亡をさし引いて推計する。

全国の社会増加（出入国の差）は何千人という程度で、無視できるのに対して、府県や市町村別など、地域の将来人口を推計するには、人口転出入の推計が非常に難しい。それは、人口移動は経済的な理由によるものが多く、たとえば景気変動などによつて左右されるなど、その予測が困難だからである。

地域に関する人口統計は、戦後とくに豊富になつたといえるが、地域人口に関する問題が過密過疎の問題、地域格差の拡大、その是正のための地域開発、公害など地域問題の重大化にもなつて、人口に関する詳しい情報が必要とされる結果でもある。

国勢調査では、たとえば、従来の市部人口のほかに、昭和35年から「人口集中地区」を設けて、より実体的な都市人口をとらえることになつたのもその一例である。

人口統計の一般的な分析には、年齢別労働力率とか年齢別死亡率などのように男女を別々に考察することが必要な場合がある。また、人口構造の分析には、構造比例数を用いる場合が多く、人口動態の考察にはある期間——通例1年間——の出生数や死亡数の、その年の人口に対する比率、すなわち発生比例数を用いるが、人口密度のような場合には人口と土地面積を対比させた対立比例数を用いる。

人口構造において、たとえば、15歳以上の労働力率は各年齢階級の労働力率の、年齢ごとの人口を重さとする加重算術平均にほかならないから、別の年齢別人口を標準として用いて標準化（労働力）率を算定することがある。出生率や死亡率についても、人口千人についての率では年齢別人口の多少によつて、過大または過小に現われるから、標準化率を算定して、その実体に近づくようにする。

地域別人口の分析には、まず、単位地域のとり方に注意し、対象地域が全地域の中に占める地位を明らかにし、地域内での人口動態と構造との因果関係や、各人口現象についての各地域間の相互関係を分析して、その地域的特性をとらえなければならない。

人口現象と各種の経済的、社会的条件との相互関係を明らかにし、とくにわが国の複雑な地域的特性を究めていくことによつて、その地域における各種の施策や計画立案に貢献することが重要である。

# 地域メッシュ方式による新統計 国土実態総合統計について

総理府統計局国勢統計課

大 友 篤

## はじめに

わが国における各種統計調査の結果表章の最小の地域単位は、従来、主として市区町村の地域である。しかし、昭和28年以降の市町村合併の促進によつて、その境界はいちじるしく拡大したため、その後人口移動の激化にともなつてクローズアップされた地域問題の解明には、市町村の境界にもとづく統計だけでは不十分で、市町村よりも小地域についての統計の必要が叫ばれるにいたつた。これに対する統計作成者側の対策は、国勢調査や住宅統計調査などの結果の人口集中地区別表章、農林センサスの農業集落別集計、国勢調査や事業所統計調査の調査区別集計などとしてあらわれた。しかし、これらの多くは、地域の範囲が調査の種類や年次などによつて異なるため、各統計相互間の比較や同種の統計の年次の比較が困難であること、調査区別集計の場合は、調査区そのものが統計表章の単位としては小さく、また、番号のみで表示され、その位置や範囲は調査区地図を参照しないと利用できないなどの欠点がある。

このため、総理府統計局では、昭和45年国勢調査にあつて、従来の市町村別、人口集中地区別や調査区別の結果の表章に加えて、人口20万以上の都市および県庁所在市の内部を人口5千人～1万人程度の地域に細分した「国勢統計区」別にも結果の表章を行なうことにしている。

一方、近年、地域開発計画、都市計画、都市再開発などの立案に際して、対象となる地域のなかを500m四方とか1km四方などの正方形の小地域に細分して、各地域別に人口、事業所数、土地利用型などの資料を収集し、分析するといういわゆる地域メッシュの手法が用いられるようになった。このような手法が用いられるようになったのは、①主要統計調査の結果は、ほとんど市町村別がその表章の最小地域単位であり、市町村の小地域別の統計は得にくい、②調査時点や表章の地域単位が異なる各種のデータを整理するには正方形の地域を用いるほうが作業上容易である、③地域の形状、大きさがそろつているのは、種々の比較、分析などに便利である、④任意の地域についてのデータが容易に得られないなどの理由によつている。

とくに、地域開発計画や都市計画などの策定にあつて、従来の行政地域別の統計は、その地域が不定形であるため、コンピュータによつてデータ処理をする場合には、利用しにくいところから、このような地域メッシュによるデータの収集がとくに最近盛んに行なわれるようになってきている。

そこで、総理府統計局では、小地域別統計の拡充と各種統計調査の結果の総合的、多角的利用をはかるために、国土を等面積の方形の小地域つまり「地域メッシュ」に細分して、国勢調査、事業所統計調査など主要な統計調査の結果を各地域メッシュ別に総合的に編集し、利用者にとつて利用し易い形式でそのなかからデータを取り出し、提供するという新式の統計「国土実態総合統計」の計画をうち出したわけである。そして、その試験的作業を首都圏の地域について行ない、昨年夏、その成果を公表した。

## 地域メッシュの手法

ところで、この地域メッシュの「メッシュ(mesh)」というのは、「ふるいの目」、「網の目」のことで、地域メッシュ法というのは、対象地域をいくつかの正方形にすぎ間なく細分して、各正方形ごとに、地図上で人口密度、家屋の数、耕地面積、森林面積、土地の高低などを計測する方法で、古くから、地理学の分野で開発され、用いられてきた手法である。

メッシュという呼び方は、わが国では広く使われているが、外国では、メッシュというよりは、グリッド(grid)ということのほうが多い。グリッドとは「格子」の意味である。このほか、グリッド・スクエア、ブロック・グリッド、グリッド・コーデイネイトなども呼ばれている。

メッシュの大きさや形状は、分析や研究、調査などの目的によつて異なる。とくにメッシュの大きさは、用いる地図の縮尺、データの内容の精粗などによつてかなり異なつてくる。また、その形状は、かならずしも、正方形とは限らず、長方形、梯形、三角形、六角形などでもよい。しかし、通常は正方形が用いられることが多い。これは、縦線と横線によつて位置を単純に表示できること、距離や面積の測定が容易であること、地図化に便利であることなどの理由によつている。

この地域メッシュ法がはじめて提唱されたのは、1919年、スウェーデンの地理学者ステン・ド・ギールによつてであり、1929年に、フィンランドのグラニヨーによつて地域解析に1km<sup>2</sup>メッシュが使われて以来、地理学ではこの方法が広く用いられるようになった。さらに、近年、地域計画や都市計画などの策定にも、地域メッシュ法が盛んに用いられるようになったのは、前述のような多くの利点によるものである。

## 国土実態総合統計の作成方法

今回、試験的に行なわれた「国土実態総合統計」の作成は、この地域メッシュの手法を電子計算機に結びつけ

て応用したものである。試験的作成の対象地域は、首都圏すなわち茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京（島部を除く。）山梨、静岡（一部）の8都県におよび約45,700km<sup>2</sup>の地域である。また、これに編集されたデータは、昭和40年国勢調査、昭和41年事業所統計調査、および昭和43年住宅統計調査の結果である。

つぎに、その作成の方法の概略を説明しよう。

(1) 最初に、建設省国土地理院発行の5万分の1地形図上でその図郭線を縦横とも20等分し、各等分点を直線で結んで縦線を緯度30秒、横線を経度45秒ごとに区切つた約1平方キロメートル方形の地域メッシュを画く。この方法は、「経緯度法」と呼ばれるもので、昭和44年12月、統計審議会が答申した方法である。対象地域である首都圏の地域メッシュ数は45,700、そのうち茨城県の地域メッシュ数は約6,000である。

(2) つぎに、地形図に記載された各地域メッシュの縦線および横線を昭和40年国勢調査の調査区地図上に転写する。さらに、その地図を参照して、各地域メッシュ別にそれに含まれる調査区の番号をリストに記載する。

1調査区が2以上の地域メッシュにまたがるときは、市街地の場合は、その調査区のうち、面積が最も多く含まれる地域メッシュにその全域が含まれるものとみなし、非市街地の場合は、調査区要図を参照して、世帯数が最も多く含まれる地域メッシュに調査区の全域が含まれるものとみなした。また、1調査区内に2以上の地域メッシュが含まれる場合にも、前述の latter の場合と同様に取扱つた。

(3) (2)で作成されたりリストにより、地域メッシュのコードとそれに対応する調査区番号をパンチし、電算機によつて国勢調査の原テープ（20%抽出集計結果<sup>3</sup>の原テープ）を用いて、各地域メッシュ別に結果を編集し、その結果を磁気テープに記録する。

(4) 事業所統計については、地域メッシュの線上にまたがる昭和41年事業所統計調査の調査区を昭和40年国勢調査の調査区に組みかえる作業を行ない、これによつて、国勢調査の各調査区番号およびこれに対応する事業所統計調査の調査区番号（1事業所統計調査区が2以上の国勢調査調査区に分かれている場合は、事業所番号）をパンチして、(2)で作成されたりリストに基づき、電算機で事業所統計調査の原テープから、各地域メッシュ別に編集し、その結果を磁気テープに記録する。

(5) 昭和43年住宅統計調査結果については、その調査区は、国勢調査調査区と同一であるので、(2)で作成されたりリストに基づき、電算機で直接編集する。

すなわち、わが国の主要統計調査の調査区は、国勢調査の調査区を基礎として設立され、調査番号による対応リストがつくられているので、各地域メッシュに含まれる国勢調査調査区が決まれば、その他の統計調査の調査区の多くは、これに基づき、対応リストから電算機により各地域メッシュ別にデータの編集を行なうことができるわけである。

### 国土実態総合統計の内容とその利用

前記の(3)～(5)で編集されたデータを記録した磁気テープは、「国土実態総合統計磁気テープ記録」と呼ばれ、その内容は第1表のとおりである。任意の地域について、このテープのなかにあるデータが入用のときは、電算機により、随時このテープから所要の統計がとり出さ

れ、利用者に提供されるしくみになつている。（提供の方法については、目下、検討中である。）

しかし、このような方法では、統計の利用者の範囲が限定されるので、さらに、この国土実態総合統計磁気テープ記録から、とくに利用度の高いと思われる127の統計指標が「国土実態総合統計資料」という名称のプリントとして作成されている。これは、従来の統計表のプリントフォームと異なり、第2表のように、各地域メッシュを示す枠のなかに統計数値をプリントしたもので、これにより地域メッシュごとの数字を直接利用できる。これは、一般の利用者には、コピーまたはマイクロフィルムとして、日本統計協会を通じて提供されている。

また、この国土実態総合統計資料のなかから基本的な指標を20ほど選び、これを縮尺30万分の1の地図（各地域メッシュ、市町村境界、市町村名も記載、）上に統計数値の階級を色別に表示した「国土実態総合統計地図」（第1集人口、第2集就業状態・職業、第3集産業、第4集住宅）が印刷、刊行され、一般にも日本統計協会から頒布されている。

このように、国土実態総合統計は、単に統計表の形で利用者に提供するというものではなく、磁気テープ、マイクロフィルム、コピー、統計地図など、利用者の必要に応じて、任意の地域の任意のデータを任意の形式で提供するもので、まづたく新しい形式の統計といえる。また、その利用上の利点も多く、まづ、1平方キロメートルの地域を単位として、広狭さまざまの任意の地域についての統計が得られるので、たとえば、河川の氾濫による災害が発生した場合、氾濫地域の人口、住宅、農作物、工場等の数を正確にかつ容易に知ることができるので適切な災害対策をたてることが可能となる。

第2に、地域メッシュは、固定して設定されているので、年次別または定期的にデータをまとめていけば、広狭さまざまの地域について、従来、市町村別には、その境域の変動があつたため、むずかしかつた時系列による比較が容易にできることになる。

第3に、各種の統計が同一の地域単位でまとめられているので、電算機を用いることにより、各種の統計を総合的に任意の地域について利用することができる。たとえば、新しい工場団地をどこに建設するかというような場合、必要となる資料は、人口、地形、既存の会社、工場の分布、産業の種類、労働力の供給市場、製品の消費市場、交通条件など多岐にわたるが、これらを同時にとり出して利用することができる。

### おわりに

昨年度、試験的に作成された国土実態総合統計は、首都圏のみを対象としたものであるが、各省庁や地方公共団体の地域計画などの部門ばかりでなく、その他の行政部門あるいは民間企業でも、大きな関心と呼び、その一部は、すでに利用されつつある。総理府統計局では、昭和46年から5か年計画で、全国を約1平方キロメートルの地域メッシュに細分し、この37万にのぼる各地域メッシュについて、昭和45年国勢調査、1970年世界農林業セサス、昭和47年事業所統計調査などの結果を編集し、本格的な国土実態総合統計の作成に着手する予定で、予算要求している。また、この国土実態総合統計は、総理府統計局でその設立準備中の「統計データ・バンク」のための小地域情報サービス・システムの一環として、大きな役割を果たすことになる。

第1表

国土実態総合統計磁気テープ記録の内容

対 象	組 合 せ 記 録 事 項
1 人口	男女(2)、年齢(101)、配偶者関係(5)
2 15才以上人口	男女(2)、年齢(14)、就業状態(6)
3 同上	男女(2)、従業・通学地(10)
4 15才以上就業者	男女(2)、年齢(7)、産業(41)、地位(4)
5 同上	男女(2)、年齢(7)、職業(41)、地位(4)
6 同上	男女(2)、産業(41)、職業(41)
7 外国人	男女(2)、年齢(17)、国籍(3)
8 世帯	世帯の種類(2)、世帯人員(11)
9 世帯人員	同上
10 普通世帯	経済構成(12)、家族構成(6)
11 普通世帯人員	同上
12 住宅に住む普通世帯	世帯人員(7)、所有の関係(4)、室数(7)、畳数(11)
13 居室	同上
14 畳数	同上
15 事業所(民営・公営)	産業(97)、従業者規模(7)、経営組織(3)
16 従業者(民営・公営)	同上
17 住宅	住宅の種類(2)、構造(3)、建て方(2)、建築時期(5)、所有の関係(4)、室数(5)、畳数(5)、設備(2)
18 借家	住宅の種類(2)、構造(2)、建て方(2)、建築時期1畳あたり家賃(9)、畳数(5)
19 棟数	建て方(3)、構造(3)
20 宅地面積	住宅の種類(2)、構造(3)、建て方(3)、建築時期(5)

(注) 組合せ記録事項のなかの ( ) 内の数字は、階級区分の数を表わす。

第2表

国土実態総合統計資料  
01 第1表 ジンコウ

等積地域符号 : 6339-45

	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99
9	3135 6	11410 8	10590 8	11060 8	11935 8	32430 9	31595 9	31585 9	33105 9	27460 9
	1590 5	5390 7	5505 7	5670 7	6150 7	16400 8	15885 8	16435 8	16645 8	13610 8
	1545 5	5520 7	5085 7	5390 7	5785 7	16030 8	15710 8	15150 8	16460 8	13850 8
8	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89
	13145 6	11980 8	22575 9	19325 8	16915 8	25345 9	35160 9	41985 9	38885 9	32510 9
	6610 7	5940 7	11265 8	9640 7	8655 7	12750 8	18345 8	21375 9	19975 8	16350 8
7	6535 7	6040 7	11310 8	9685 7	8260 7	12595 8	16815 8	20610 9	18910 9	16150 8
	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79
	12795 8	13895 8	17210 8	16180 8	26945 9	30965 9	30690 9	22075 9	31155 9	21800 9
6	6595 7	7095 7	8625 7	8425 7	13610 8	15750 8	15240 8	11575 8	15335 8	10935 8
	6200 7	6800 7	8858 7	7755 7	13335 8	15215 8	15450 8	10500 8	15820 8	10865 8
	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69
5	13315 8	19675 8	15695 8	24410 9	18965 8	30395 9	23415 9	26985 9	30990 9	24820 9
	7100 7	9975 7	8010 7	12415 8	9800 7	14830 8	11610 8	13563 8	15590 8	12165 8
	6215 7	9700 7	7685 7	11995 8	9165 7	15565 8	11805 8	13425 8	15400 8	12655 8
4	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59
	13425 8	23120 9	28225 9	28295 9	27975 9	23135 9	20995 9	25365 9	16655 8	21595 9
	9250 7	11595 8	14560 8	14985 8	14390 8	11900 8	10320 8	12780 8	13665 8	11250 8
3	9175 7	11525 8	13665 8	13310 8	13585 8	11235 8	10675 8	12585 8	8235 7	10345 8
	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49
	24915 9	27980 9	32455 9	24810 9	28775 9	30070 9	23795 9	19915 8	33675 9	25575 9
2	12695 8	14405 8	16665 8	12985 8	14570 8	15250 8	11915 8	11260 8	17700 8	13665 8
	12220 8	13575 8	15800 8	11825 8	14205 8	14820 8	11882 8	8655 7	15975 8	11190 8
	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39
1	21185 9	24775 9	27915 9	33075 9	30995 9	35700 9	26780 9	27790 9	25530 9	16630 8
	10830 8	12260 8	13980 8	16085 8	15980 8	18045 8	13005 8	13980 8	12845 8	7425 7
	10355 8	12515 8	13935 8	16990 8	17015 8	17655 8	13775 8	13810 8	12685 8	9205 5
0	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
	9260 7	19865 8	19785 8	21205 9	35275 9	19885 8	13070 8	29640 9	18605 8	10710 8
	4725 6	10105 8	10375 8	10360 8	17795 8	9585 7	6600 7	14655 8	10380 8	5180 7
0	4535 6	9760 7	9410 7	10845 8	17480 8	10300 8	6470 7	14985 8	8225 7	5530 7
	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
	10320 8	10580 8	16225 8	29450 9	38410 9	20555 9	15225 8	10030 8	11810 8	8615 7
0	5115 7	5415 7	8120 7	15370 8	19760 8	9605 7	7125 7	4470 6	5645 7	4375 6
	5205 7	5165 7	8105 7	14080 8	18650 8	10950 8	8100 7	5560 7	6165 7	4240 6
	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09
0	12480 8	12410 8	19335 8	29380 9	20980 9	12360 8	8880 7	14065 8	9050 7	7600 7
	6420 7	6045 7	9765 7	15325 8	10965 8	6245 7	4350 6	6955 7	4300 6	3270 6
	6060 7	6365 7	9570 7	14055 8	10015 8	6115 7	4530 6	7110 7	4750 6	4330 6

(注) 黒線上部の数字は、地域メツシユコードの一部。点線下部は、上段の数字は総数、中央が男、下段が女を表わす。点線の右側の数字は、階級区分の符号である。